

大崩山

M4 荒川 晶

【参加メンバー】

M4 荒川(単独)

【コースタイム】

天候 晴一時曇

登山口 06:35－大崩山荘 06:55-07:10－袖ダキ 08:40-09:05－中湧塚 09:50-10:10－上湧塚 11:00-11:30－大崩山頂 12:40-13:00-小積ダキ 13:30-14:10－大崩山荘 15:50-16:15－登山口 16:35

【概要】

11 月頭に関西の友人から四国方面への旅行の誘いが掛かったので、どうせなら海を渡って九州へと思い、観光旅行も兼ねつつ、M1 の 3 月に訪問した大崩山を再訪することにした。当時から印象に残った山だったが、今回およそ 2 年半ぶりに訪問してみて、改めてその奇観に感動させられた 1 日だった。

【本文】

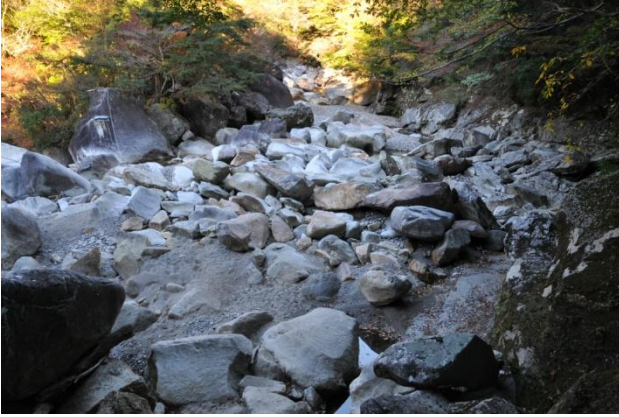
前日は延岡市内に 1 泊。早朝の 5 時頃出発して、祝子川溪谷沿いの険道を 1 時間ほどドライブ。前回も同じルートで来たのだが、メンバー 4 人で喋りながら来たためかさほど時間が掛かる印象を受けなかったが、意外と狭隘なカーブが続き速度が乗らない。6 時頃の到着予定だったが、準備の関係もあり出発は 6 時 30 分頃となった。前は車 2 台だったが、今回は平日ながら 5.6 台の車が駐車しており少し意外な印象を受けた。3 月末ではまだ登山道の凍結リスクがあることも関係しているのかもしれない。

大崩山荘までの道のりをウォーミングアップがてら歩く。祝子川溪谷まで随分高度差があるが、次第に差を詰めていき丁度高度が一致した辺りが大崩山荘。前は確認しなかったが水場が細いながらもきちんと確保されており、トイレもあるので中々過ごしやすそうな小屋である。

少々休憩を挟み、湧塚分岐点の渡渉地点へ。前は水量もやや多く、渡渉点探しに難渋したのだが、今回は水も少なめでらくらく渡渉。小積谷を遡るルートは以前もルートファインディングに苦労したが、やはり分かりにくく途中で一度迷いかけた。1 時間 30 分ほどで、ルート中随一の展望台、袖ダキに到着。この日も比較的天気がよく、下湧塚や小積ダキの奇観や、振り返れば豊後水道を挟み、四国の石鎚山までが見渡せた。展望を楽しみつつ 30 分ほど休憩。



(左)渡渉点付近から、小積ダキを眺める。帰りは小積ダキから左の岩峰群を抜けて下山することになる。

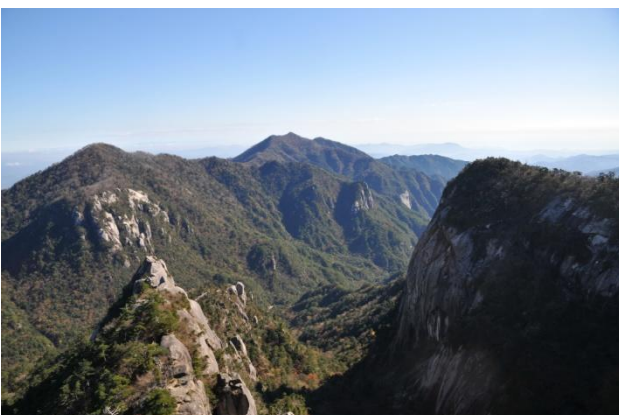
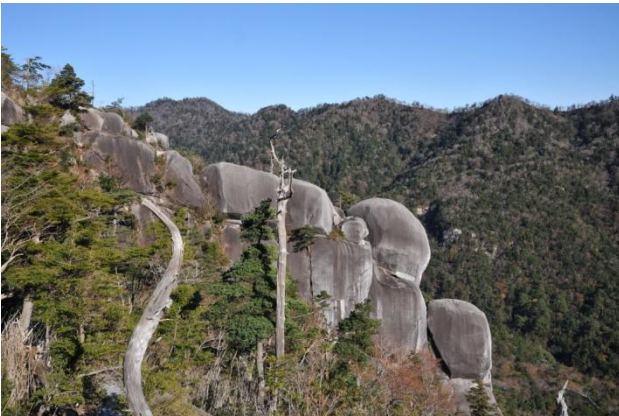


渡渉点。岩を飛び石のように渡って渡渉するが、今回は水が殆どなく、楽に渡ることができた。



袖ダキから下湧塚を眺める。この存在感は何度見ても圧倒されるものだ。

今回も前回と同じルートを取ったのだが、今回は殆ど寄り道せず通過したので、今回は枝道も目の付く限り消化していくことにした。まずは乳房岩。東方向の展望が良く、木山内岳、桑原山などの山々が祝子川溪谷を挟んだ対岸に美しい。続いて下湧塚から中湧塚の縦走路も散策。ここは以前通ったかどうか記憶が怪しかったが、後で記録写真を確認してみるとどうやら通っていたようで、後輩たちがロープに奮闘する姿がきちんと記録されていた。折角なので、中湧塚付近では付近の登れそうな岩たちに手当たり次第登ってみる。雨垂れ石を穿つ、の諺か、はたまた花崗岩の岩質かどうか分からないが、頂上付近の岩には幾つか窪みのあるものも多く、先日の雨で出来た水たまりが形成されていた。この辺りからは上湧塚を見上げ、下湧塚を見下ろす独特の景観の他、北面の五葉岳、傾山の展望もよい。残念ながら紅葉にはやや遅かったようで、結局前回の訪問時と変わらないような光景が広がっていたが、天候にも恵まれ満足。



(左上)袖ダキから乳房岩を。中央に聳える丸い形の岩がおそらくそれだと思う。

(上)乳房岩方面への枝道から。正面が木山内岳、奥に桑原山が見える。

(左)中湧塚まで来ると大分見晴らしが良くなる。手前に下湧塚。右手には小積ダキが見える。奥は先程の木山内岳と桑原山。



中湧塚の岩峰と、遠景に上湧塚。全体を通じてここが一番見晴らしが良いように思えた場所だった。



北面には左奥に傾山。さらに遠くに、由布岳、鶴見岳も遠望できた。

ここから一旦山腹に下り上湧塚へ。前はルートが見つけれられず登頂は断念したので、今回は意地を張って岩場の中の狭いトンネルをようやくの思いで抜けてピークへ。展望も良く、独特の充実感。下りは辛そうなルートだったので他にルートがないか見まわしていたら下方に伸びるロープが。興味半分で辿ってゆくと、難なく湧塚を 1 周して下へと戻ってきてしまった。最初からこっちのルートを使えば良かったなと少々がっかり。ここでは弁当を広げ昼食を食べているグループを見掛けた。

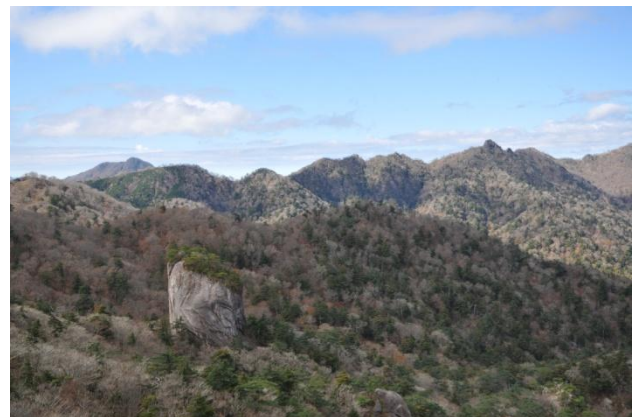
少々予定より遅い時間になったが、間に合わなくもないタイミングだったので、山頂まで往復することに。上湧塚を出て比較的すぐの所に、前は無かった小積ダキルートへのショートカットルートが新たに出来ていた。実際この先山頂まで誰にも出会わなかったのが、殆どの人が山頂を往復せず、このルートを経由して小積ダキルートへ抜けて下山しているようだ。

30 分ほどで小積ダキルートとの合流点に。昔ながらの青い看板は健在。樹林帯に阻まれ展望は良くない道を歩き、さらに 30 分ほどで大崩山山頂に到着した。山頂手前には西方面への展望地があり、高千穂方面の山々や、祖母山も眺めることが出来て中々良い場所。願わくは東方面の岩稜群を見下ろせる場所があれば…ということなのだが、残念ながらそういった場所はないようだ。

30 分ほど休憩して、昼食およびセルフ記念撮影。前回の登頂時、次の登頂はいつになるだろうか…と思いを馳せたが、案外にも 2 年半であっさりと来てしまった。次こそは本当にブランクが空きそうである。



上湧塚より。手前には中湧塚の岩峰が聳える。



北西方向の展望。左やや奥が祖母山か。



上湧塚頂上への登りルート。この岩の隙間を登ったが、実際はもっと楽なルートがあった。残念。



山頂手前の展望地から。祖母山が右奥に遠く見える。

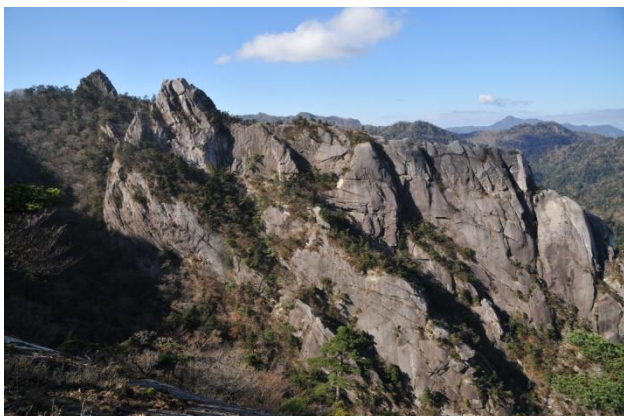


山頂で記念撮影。上湧塚～山頂の間では誰にも出会わなかった。敢えて外すのが九州流なのか。



展望地はこのようにちょっとした岩稜帯になっている。

来た道をやや急ぎ足で引き返し、小積ダキコースへと入る。道中誰もいないと思って歌を歌っていたら途中で人に追い付いてしまい恥ずかしかった。小積ダキの直前には湧塚シリーズの岩稜群を一望できるスポットがあり、また小積ダキのピークも中々の好展望地で、やはり時間を潰してしまう。眼下には有名な象岩。前はピンとこなかったのだが、目、鼻、口がどの部分に相当するかよく考えながら見るといかにもそれらしい。象岩直下には有名な長いロープ場があり、見下ろすと渡っている人もちらほら。



小積ダキ手前の、湧塚シリーズの岩峰一望スポットから。足元がやや悪いので注意されたし。



逆光気味だが、確かに象岩は象のように見えてくる。少なくとも前回よりはそう感じた。

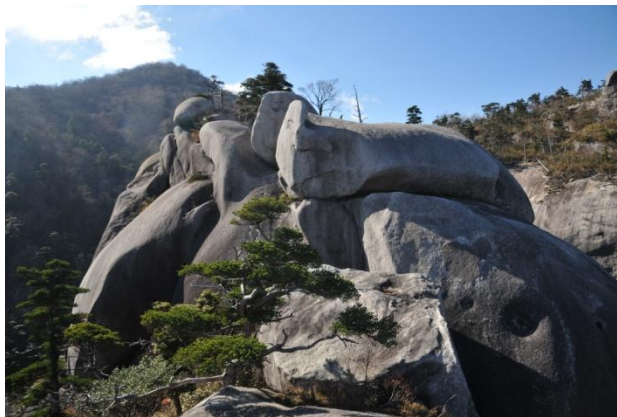


小積ダキから西方向を振り返る。大崩山山頂は中央やや左寄りのピーク。



象岩方向の全景はこのように広がっており、祝子川溪谷を一望できる。

時間を気にしつつものんびりしてしまい、今度は象岩付近の枝道を散策。象岩は回りこむだけかと思っていたが、恐らくそれと思われる岩まで枝道が伸びており、ここも訪問してみた。小積ダキが圧倒的な存在感をもって迫ってくる良いスポット。件の有名なロープを渡り、岩場、梯子、ロープの連続するルートを慎重に下る。前回は後輩たちを無事に連れて帰ることに必死だったが、今回は余裕を持って周囲の枝道にも目を光らせながら下山してゆく。地図上では尾根から沢まで、大崩山荘のかなり手前で降りることになっていたが実際は山荘直前まで尾根を下るような格好になっており、ペースが遅いのかと勘違いして焦ってしまう。幸いにも想定していたより早く山荘に着くパターンの間違いだったのでほんと安心。沢へと降りるルートの途中には、渡渉困難時、二枚ダキコースへの迂回ルートが設定されていた。今回は心配なく渡渉出来て、前回はここを渡った時に心底安心したのを思い出した。



(左上)象岩のトラバース付近から枝道を辿った先の展望地から。正面が象岩のようだ。

(上)視線を右にやれば、小積ダキが大きい。奇しくも左とほぼ連続写真になっている。

(左)幾つも連なる鎖場、梯子、ロープを繰り返して下る。次第に高度差が大きくなり、小積ダキもひととき存在感を放つようになる。



大崩山荘にも折角の機会なので訪問。ノートにも数は少ないが宿泊した方々の記載があり、皆良い山だと述べていて心が和んだ。あと、ここを起点にして木山内岳に登りましたとの記載もあり、そういうルートもあるのかと驚いた。水を補給したりして出発。

最後の 20 分は来た道を引き返すだけのルート。だが慎重に、慎重にと心がけながら歩き、16 時 30 分過ぎに登山口に到着した。予定を少し過ぎてしまったが、日没には余裕を持って下山出来たのでよしとしよう。帰り掛けに気になっていた二枚ダキ登山口への林道を少し遡ってみた。車で 5 分ぐらいの所までは行けるが、その先は荒廃しており通行不能だった。

帰りには定番の祝子川温泉に日帰り入浴。18:00 までの営業ともあり、もう少しだらだらしていたら危うく入り損ねるところだった。最後まで天気も安定し、良い 1 日となった。



木々の隙間から大崩山荘。水場、トイレもあり
広々として快適。



登山口にて。お決まりの山型看板は、なおも健
在。今年は車上荒らしが発生したのだとか。